

研究課題：術前バルーン閉塞試験にて脾動脈瘤に対する塞栓術後の脾梗塞領域を予測する

実施責任者：	放射線医学教室	大学院生	立元将太
実施分担者：	放射線医学教室	准教授	田中利洋
	放射線医学教室	医員	茶ノ木悠登
	放射線医学教室	大学院生	松本武士
	放射線医学教室	大学院生	斎藤夏彦
	放射線医学教室	助教	正田哲也
	放射線医学教室	大学院生	佐藤健司
	放射線医学教室	講師	西尾福英之
	放射線医学教室	教授	吉川公彦

研究目的：脾動脈瘤塞栓前にバルーン閉塞試験を行うことで塞栓後の脾梗塞領域を予測し、最適な動脈瘤塞栓術を目指す研究です。

研究意義：脾動脈瘤は最も頻度の高い内臓動脈瘤であり、カテーテルを用いた塞栓術が治療の第一選択となります。塞栓時に生じる最も頻度の高い合併症は脾梗塞で、患者さんの血管解剖や塞栓方法により発症リスクは異なります。そこで、動脈瘤塞栓の前に小さな風船がついたカテーテルを用いて患者さんの血管解剖を詳細に把握すること（術前バルーン閉塞試験）で、最適な塞栓方法を選び、脾梗塞のリスクを低減させることができると考えられます。

対象：研究対象者は当院放射線科で2010年1月～2019年3月の間に動脈瘤塞栓術が施行された患者です。対象者数は約20例です。

研究期間：この研究は、奈良県立医科大学の医の倫理審査委員会承認年月日から2020年3月31日まで行う予定です。

研究方法：当院放射線科で術前バルーン閉塞試験後に脾動脈瘤塞栓術を施行した症例を抽出します。症例の診療情報（年齢、既往歴、投薬歴など）を確認後、検査・治療時の血管造影と術後脾梗塞の領域を比較します。

当該研究に参加することにより期待される利益および起こりうる危険ならびに必然的に伴う心身に対する不快な状態について：対象患者様が受ける利益・不利益はありません。

個人情報の取り扱い：収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報

を除いて匿名化いたしますので、個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会などで発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

その他：本研究は医の倫理審査委員会の承認および学長の許可を得て実施します。この研究のために、患者さんに新たな検査や費用が追加されることは一切ありません。また、研究の対象となる患者さんに謝礼はありません。この研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。

上記の研究の対象に該当する患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合には、奈良県立医科大学附属病院 放射線医学教室までご連絡ください。

問い合わせ先：奈良県立医科大学 放射線医学教室 立元将太  
連絡先 0744-22-3051（代表）、内線(66598)